

2019 年卒
Vol.11

10月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018年10月発行)

正式内定日(10月1日)を迎え、内定状況はどのように変化しただろうか。キャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は9割を超えたが、前年同期実績には届かなかった。今期は内定出しのタイミングが早期化した一方で、7月以降は伸び悩んだ。また今回は、中小企業への応募や、就活日程ルールへの考えなどの調査結果も紹介したい。

(2019年卒・定期調査 最終回)

1. 10月1日現在の内定状況

- 内定率は90.5%。9月調査(89.2%)からの伸びは1.3ポイント
- 前年同期実績(92.7%)を2.2ポイント下回る
- 就職活動を終了したのは全体の85.9%

2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

- 「就職先が決まるまで就職活動を続ける」54.2%。前年(62.9%)より大きく減少
- 理系を中心に大学院進学が大幅増。文系女子は「非正規雇用で働く」が1割超

3. 中小企業への選考応募状況

- 中小企業の「面接試験を受けた」経験をもつ学生は59.8%。前年(60.8%)より微減
- 受けた理由は「会社の雰囲気が良い」44.3%、「やりたい仕事に就ける」42.1%
- 受けていない理由は「給与・待遇が良くない」42.2%、「安定性に欠ける」37.1%

4. 内定後のフォローと内定者研修

- 企業に望むフォローのペースは「1カ月に1回程度」27.2%、「2カ月に1回程度」23.8%の順。
- 内定期間中の研修や課題には56.4%が賛成。理系よりも文系学生において肯定的

5. 就職活動で大変だったこと

- 文系理系ともに1位「エントリーシート」、2位「自己分析」

6. 就職活動の費用

- 平均135,881円で、前年調査より8千円減少。就活費用を調査し始めて以降最も低い金額に
- 総額が最も高いのは「北海道」(180,223円)、最も低いのは「関東」(110,424円)

7. 就活日程ルールへの考え

- 7割超が「ルールは必要」。「今のルールが良い」24.2%、「今の日程でなくても良い」46.5%
- ルールがない場合、就職活動を開始したい時期は「3年生の4月」、終了は「4年生の4月」

調査概要

調査対象 : 2019年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,159人(文系男子349人、文系女子344人、理系男子307人、理系女子159人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2018年10月1日~9日
サンプリング : キャリタス就活2019学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 10月1日現在の内定状況

10月1日現在の学生モニターの内定率は90.5%。先月調査(9月1日時点)の89.2%から1.3ポイント伸び9割を超えたが、前年同期(92.7%)には届かなかった。今期を振り返ると、序盤は前年同期を上回る内定率をマークしていたが、7月以降は前年を割り込む状態が続いた。早期化の一方で、後半になるにつれ、就職以外の進路を模索する未内定学生の存在もあり、内定獲得のペースは鈍くなった。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは94.9%。モニター全体を分母にとると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は85.9%(グラフは次ページ)。複数内定を保留しているなど未決定である者(1.6%)を合わせると活動終了者は87.5%となる。

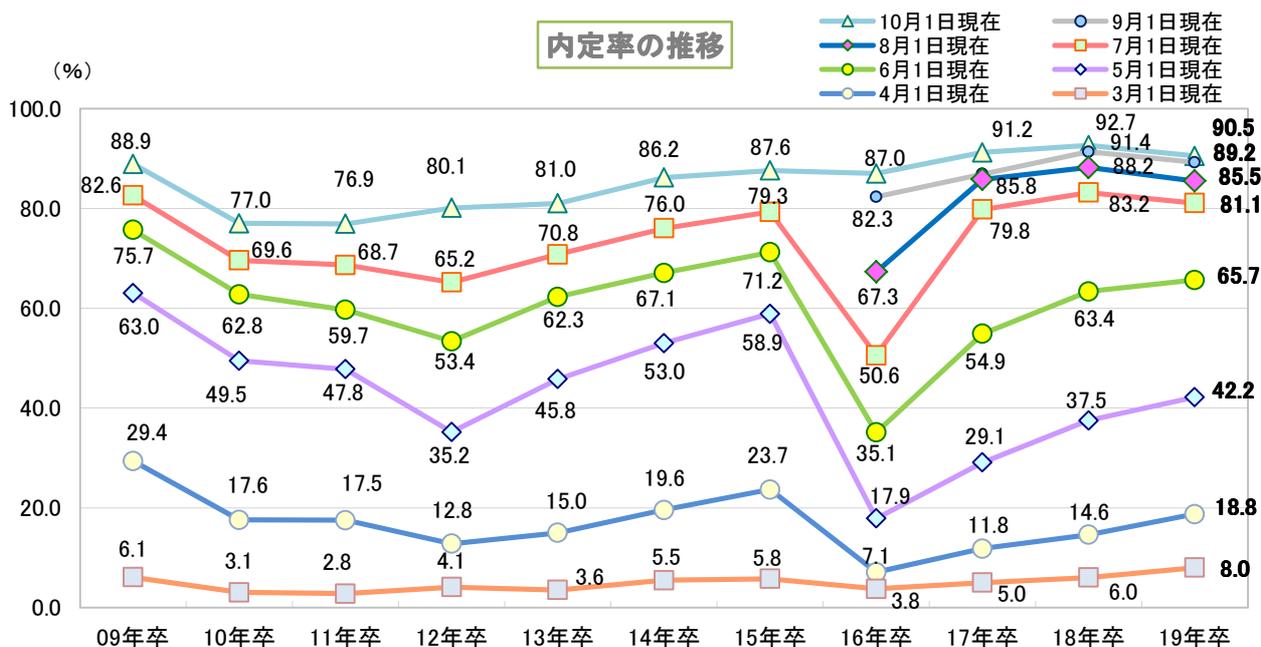
10月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		90.5 (92.7)	89.1 (91.2)	93.3 (94.3)	88.6 (91.1)	91.2 (95.7)
内定なし		9.5 (7.3)	10.9 (8.8)	6.7 (5.7)	11.4 (8.9)	8.8 (4.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	94.9 (94.1)	95.2 (92.7)	94.4 (93.3)	95.2 (96.0)	95.2 (95.5)
	活動は終了したが複数内定保持	0.7 (1.2)	0.3 (1.6)	0.9 (1.5)	0.0 (0.7)	2.1 (0.6)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.1 (1.0)	0.3 (1.1)	0.6 (0.3)	2.9 (1.4)	0.7 (1.3)
	就職活動継続	3.2 (3.7)	4.2 (4.6)	4.0 (4.8)	1.8 (1.8)	2.1 (2.6)

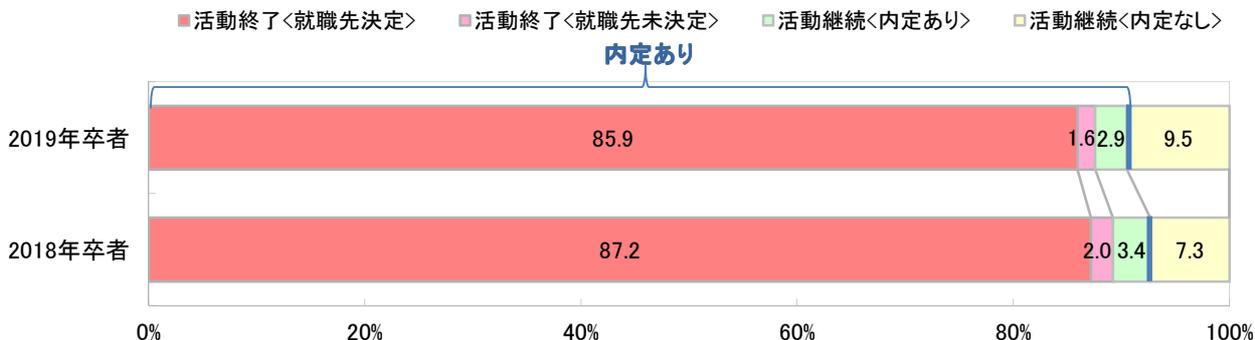
		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.4)	2.3 (2.7)	2.4 (2.2)	2.3 (2.3)	2.2 (2.3)

※ () 内は前年(10月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

学生モニター全体の活動状況



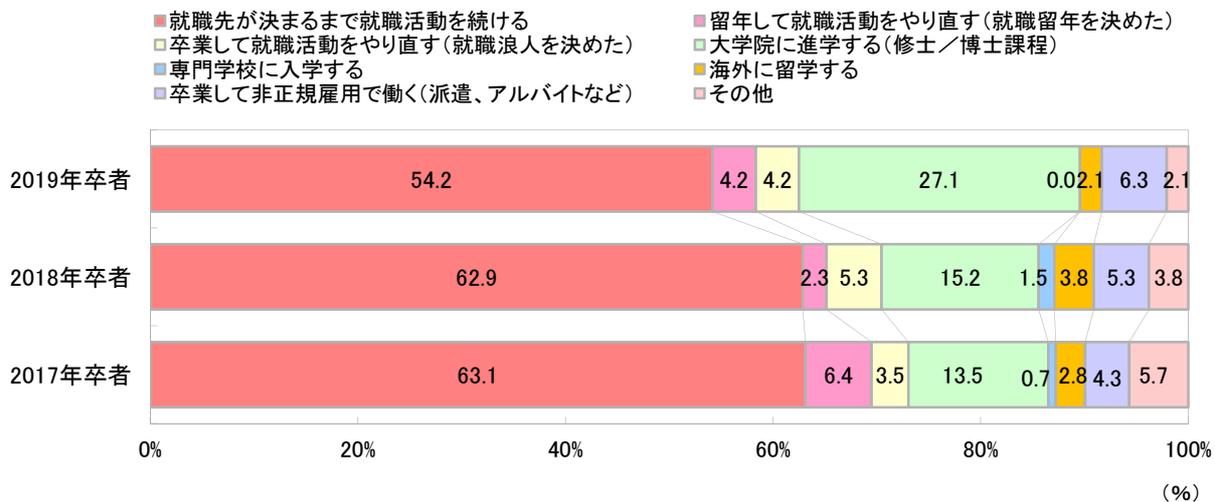
2. 就職先が決まっていない学生の今後の予定

10月1日時点で就職先が決まっていない学生（モニター全体の12.4%）に、今後の予定を尋ねた。

「就職先が決まるまで就職活動を続ける」という回答が54.2%で最も多いが、前年（62.9%）に比べ8.7ポイント減少した。「大学院に進学する」が大きくポイントを伸ばしており（15.2%→27.1%）、無理に就職するよりも、より専門的な学問の修得に目が向く傾向が強まっているようだ。とりわけ理系学生において顕著。

また、「卒業して就職活動をやり直す（就職浪人を決めた）」（4.2%）と「卒業して非正規雇用で働く（派遣、アルバイトなど）」（6.3%）を足すと10.5%となり、非正規雇用や未就業のまま卒業しても構わないと考える層は1割を超える。文系女子において「非正規雇用で働く」が11.1%と高い。

就職先が決まっていない学生の今後の予定



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職先が決まるまで就職活動を続ける	62.7	69.4	40.0	29.4
留年して就職活動をやり直す (就職浪人を決めた)	7.8	0.0	5.0	0.0
卒業して就職活動をやり直す (就職浪人を決めた)	5.9	8.3	0.0	0.0
大学院に進学する (修士/博士課程)	13.7	5.6	50.0	58.8
専門学校に入学する	0.0	0.0	0.0	0.0
海外に留学する	3.9	2.8	0.0	0.0
卒業して非正規雇用で働く (派遣、アルバイトなど)	5.9	11.1	2.5	5.9
その他	0.0	2.8	2.5	5.9

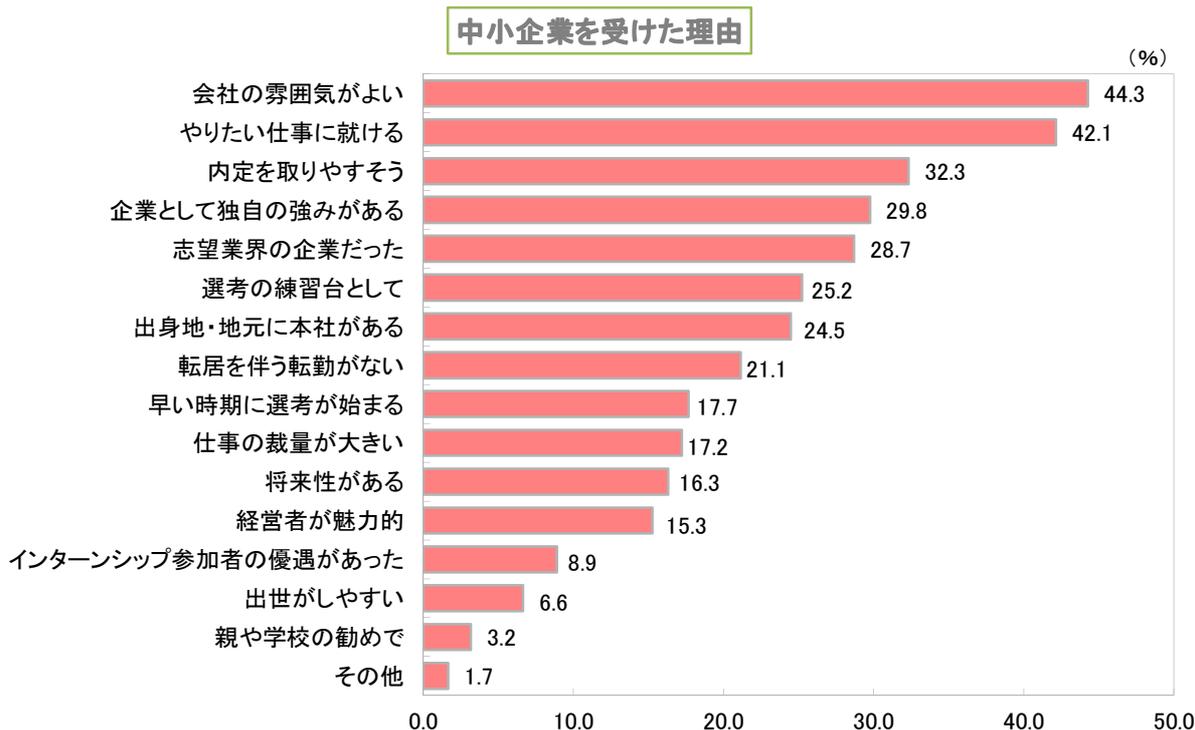
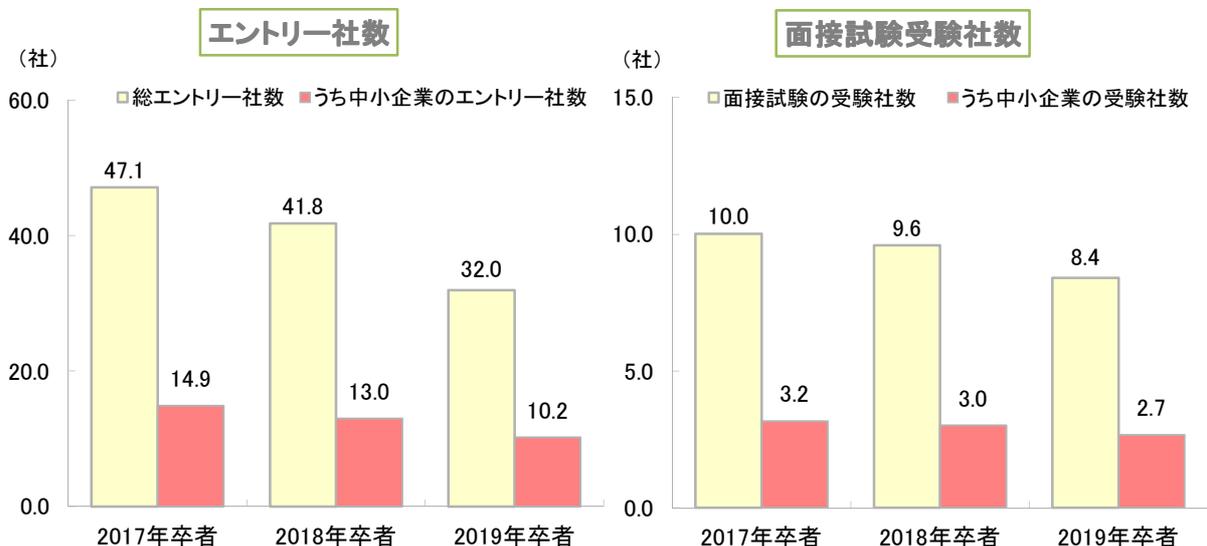
3. 中小企業への選考応募状況

全員を対象に、従業員300人未満の中小企業への応募について尋ねたところ、「中小企業にエントリーした」(66.1%)、「中小企業の面接試験を受けた」(59.8%)ともに、前年調査より減少した。

中小企業へのエントリー社数の平均は10.2社で、前年調査(13.0社)より1.8社減少。前々年(14.9社)からは約5社減少した。総エントリーに占める中小企業の割合は約3割で大きな変化はないが、総エントリー社数の減少に伴い、中小企業へのエントリー社数も減少した。

面接受験社数は平均2.7社。エントリー社数の減少に伴い、面接社数も徐々に減少している。中小企業にとって、まずは学生に知ってもらい、エントリーしてもらうことが重要と言えるだろう。

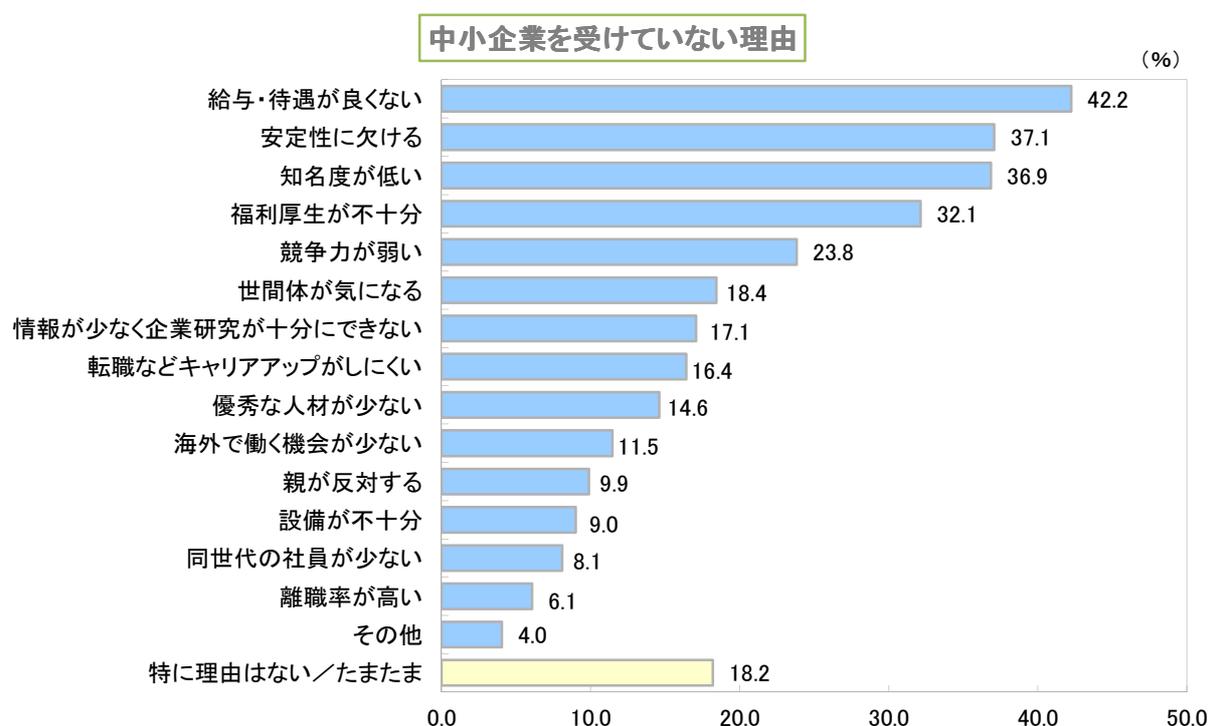
	(%)			(%)	
	全体	前年全体		全体	前年全体
中小企業にエントリーした	66.1	67.4	中小企業の面接試験を受けた	59.8	60.8



中小企業を受けた理由を見ると(グラフは前ページ)、「会社の雰囲気がよい」(44.3%)、「やりたい仕事に就ける」(42.1%)、と続いた。また、「内定を取りやすそう」「選考の練習台として」も比較的多く、大手企業の面接の練習や滑り止めとして中小企業を受検する学生も少なくないことがわかる。

一方、中小企業を受けていない学生(モニター全体の33.9%)に、その理由をたずねると、「給与・待遇が良くない」(42.2%)、「安定性に欠ける」(37.1%)、「知名度が低い」(36.9%)、「福利厚生が不十分」(32.1%)までが3割を超えており、条件面での懸念が中心であることがわかる。

また「特に理由はない」が2割近くあり(18.2%)、短い採用広報期間に、大手志向の学生が中小企業まで見る時間的余裕がなかったと推測される。学生から寄せられたコメントを見ると、選考時の対応は大手より高く評価するものの、それ以前に「情報が少ない」「発見しづらい」という声も多い。自社の強みや魅力をしっかり発信する必要があるようだ。



■中小企業を受けた印象

- 面接で内面や人柄を中心に聞く質問が多く、社風とのマッチングを重視している点に好感を持った。しかし、一部の企業では人手不足を感じる面もあり、労働環境の面では魅力を感じない企業も多かった。 <理系男子>
- 将来上司となる方が面接されるので、より職場の雰囲気をつかみやすいと感じた。 <理系女子>
- 社長とお話できるので、トップの人の考え方がわかってよかった。 <文系女子>
- 大手企業と比べて求人情報が見つげづらかったので、もっと合説等に参加してほしい。 <文系男子>
- メルマガやセミナーなどのメールが少ない。定期的に何かメールがないとその企業の魅力が学生にとって薄れてしまい、選考を辞退してしまうと感じる。 <理系男子>
- 企業を分析するための情報源が少なく、見極めが難しい。 <文系女子>
- 学生向けではなく顧客向けのパンフレットを渡されることが多かったため、その点がわかりにくく改善すべきだと思った。反対に、中小企業の方が面接でしっかりと学生のことを見ようとする姿勢が見られた点がよかった。 <文系女子>

4. 内定後のフォローと内定者研修

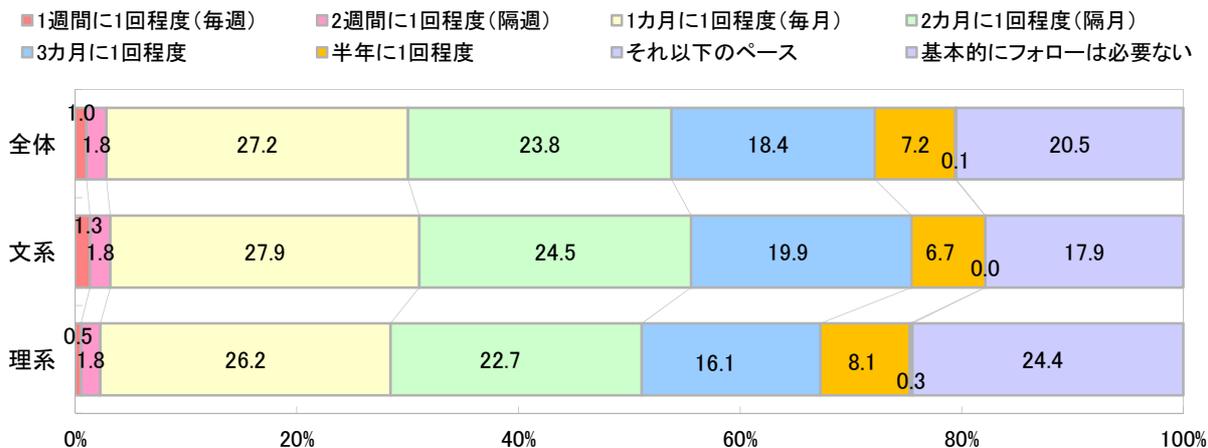
就職活動を終了した学生に、内定後、企業にどのくらいのペースでフォローしてもらいたいと思っているのかを尋ねた。最も多かったのは「1カ月に1回程度(毎月)」で27.2%。次いで「2カ月に1回程度(隔月)」23.8%と続き、「3カ月に1回程度」が18.4%。

一方で「基本的にフォローは必要ない」という回答も2割超(20.5%)。「フォローは必要ない」と回答した学生は、文系17.9%、理系24.4%と、理系のほうが6.5ポイント多い。希望するフォローのペースも、全体的に理系学生のほうが頻度は低く、頻繁なフォローは望まない傾向が表れている。就職活動終了後は、卒業論文・卒業研究に注力する理系学生が多いことから、学業の妨げにならない範囲にとどめてほしいと考えている様子が見える。

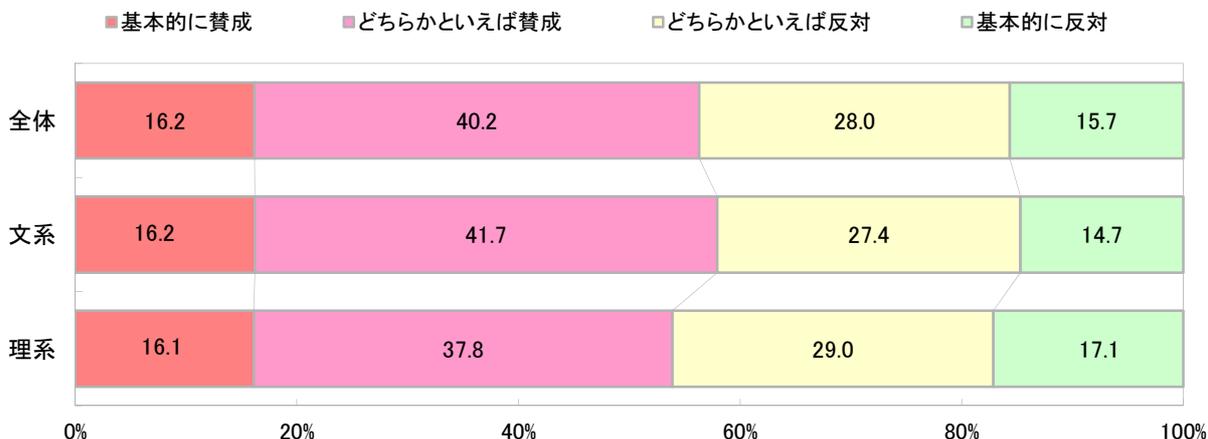
また、内定期間中の研修や課題が出ることについての考えを尋ねたところ、「基本的に賛成」16.2%と「どちらかといえば賛成」40.2%を合わせ過半数(計56.4%)が賛成との意向を示した。語学の学習や資格取得など自己啓発へのサポートを、企業に望む学生は少なくないようだ。文理で大きな差はないものの、文系学生では賛成が57.9%と、理系学生(53.9%)に比べてやや高く、文系学生の方が内定期間中の研修・課題に肯定的だ。

いずれにしても、学生の負担にならないよう、それぞれの状況を踏まえた対応を心掛けたい。

企業に希望する内定後フォローのペース



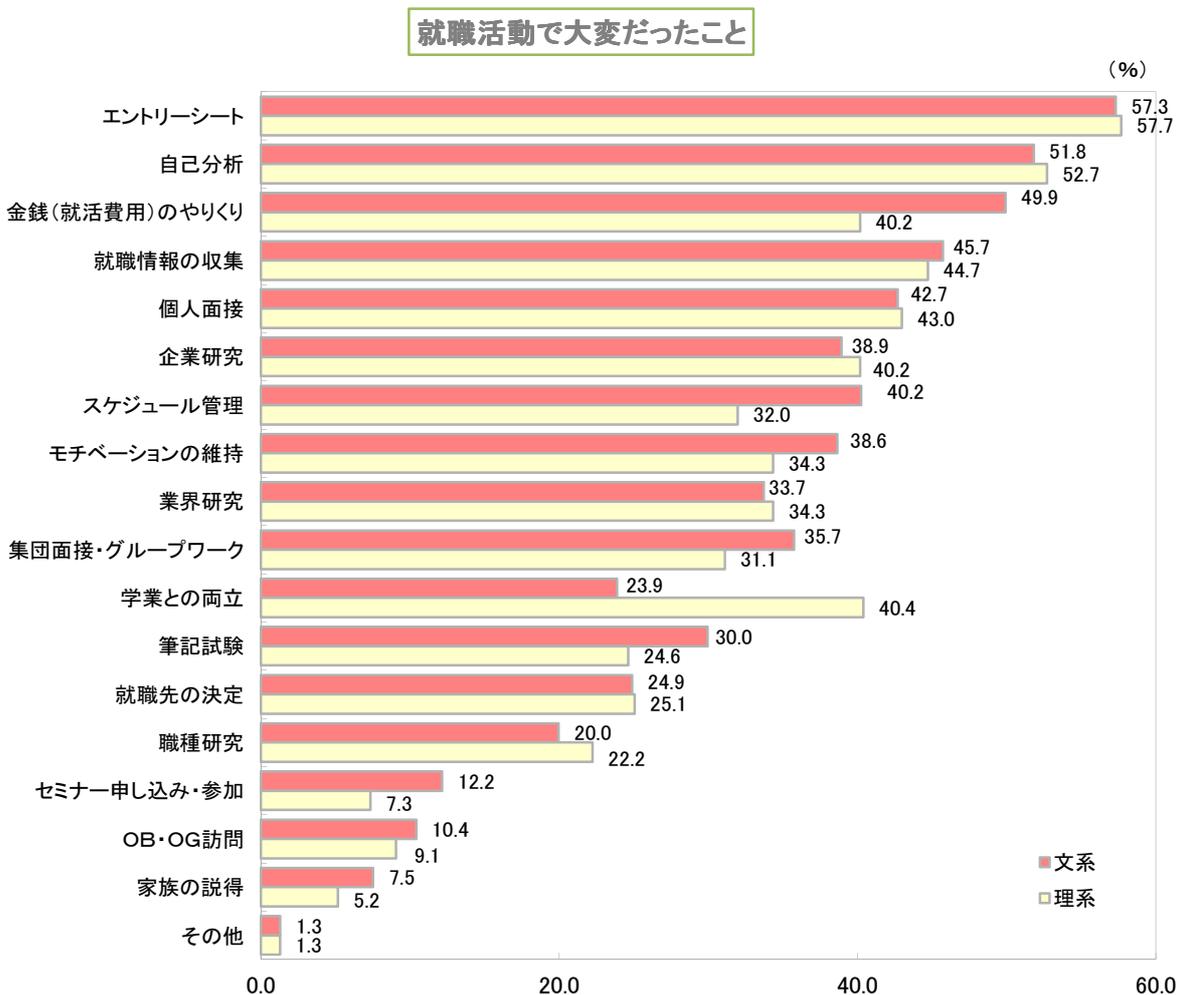
内定期間中に研修や課題が出ることへの考え



5. 就職活動で大変だったこと

全モニターを対象に、就職活動で大変だったことをすべて選んでもらい、文理別に比較してみた。文理ともに1位「エントリーシート」、2位「自己分析」で、いずれも半数を超えており、多くの学生が苦労したことがわかる。

「金銭（就活費用）のやりくり」は、文系では約5割（49.9%）が選んだのに対し、理系では40.2%と10ポイント近い差が見られる。文系学生は、理系学生に比べて会社説明会や、面接受験などの活動量が多い傾向があり、交通費がかさんだことなどが影響しているのだろう。一方、「学業との両立」は、文系（23.9%）に対し、理系は4割超（40.4%）と2倍近い差がついている。卒業研究や学会に向けた準備が忙しく、両立が困難だったという声が多く寄せられた。



■就職活動で大変だったこと

- 3月の後半くらいにエントリーシートの締め切りが重なって大変だった。 <文系男子>
- 自己分析には1番時間をかけたので苦労した。しかしその分、面接で突飛な質問をされても臨機応変に答えることができた。 <文系男子>
- 学会や実験の準備も進めなければならないため、なるべく面接や説明会の日を固めて就職活動が何もない日をつくるようにした。 <理系女子>
- インターンを含めれば1年位モチベーションを保ち続けなければならない。就活を頑張っている友人と話をしモチベーションを保つように心掛けた。 <理系男子>

6. 就職活動の費用

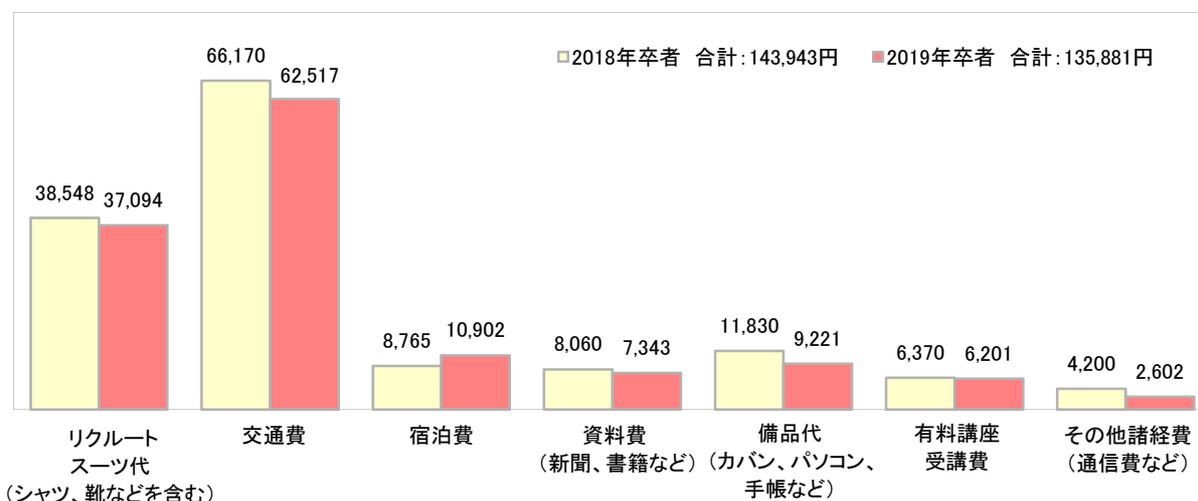
就職活動にかかった費用について、「リクルートスーツ代」「交通費」「宿泊費」「資料費」「備品代」「有料講座受講費」「その他諸経費」の7つの項目ごとに金額を尋ねた。各項目の平均を算出し足し上げると135,881円となり、前年調査(143,943円)を8千円あまり下回った。これは、2009年に就活費用を調査し始めて以降、最も低い金額だ(就活費用の推移は次ページにグラフ掲載)。

多くの項目で減少したが、減少額が大きいのは就活費用のうち最も多くを占める「交通費」。前年の66,170円から62,517円へと約3,600円減った。学生に優位な売り手市場に加え、今年は早期に志望企業を絞り込む傾向が強まったことで、学生一人あたりのセミナー参加社数や面接などの選考試験受験社数が減少した。それに伴い、交通費が減少したと考えられる。また、企業から交通費の支給を受けた学生は7割を超えており(76.4%)、これも費用を下げる一因となった可能性がある。

全体の費用を地域別に見ると、平均額が最も高いのが「北海道」で、180,223円。2番目が「中国・四国」170,167円で、「九州・沖縄」が僅差で続く(168,416円)。地方は交通費の額が多く、「中国・四国」は10万円に迫り、「九州・沖縄」「北海道」は約9万円に上る。全体の金額が低いのは「関東」(110,424円)。交通費・宿泊費の違いが合計額に大きく影響している。

就職活動費用の出どころを尋ねると(グラフは次ページ)、「全額自分で工面した」は4割で(40.0%)、「親に出してもらった(返済しない)」が半数近くに上る(48.6%)。親の負担額は平均84,399円。平均13万円を超える金額は学生が数カ月間に使う額としては高額であり、工面が難しい学生も少なくないことがうかがえる。

就職活動の費用(平均)



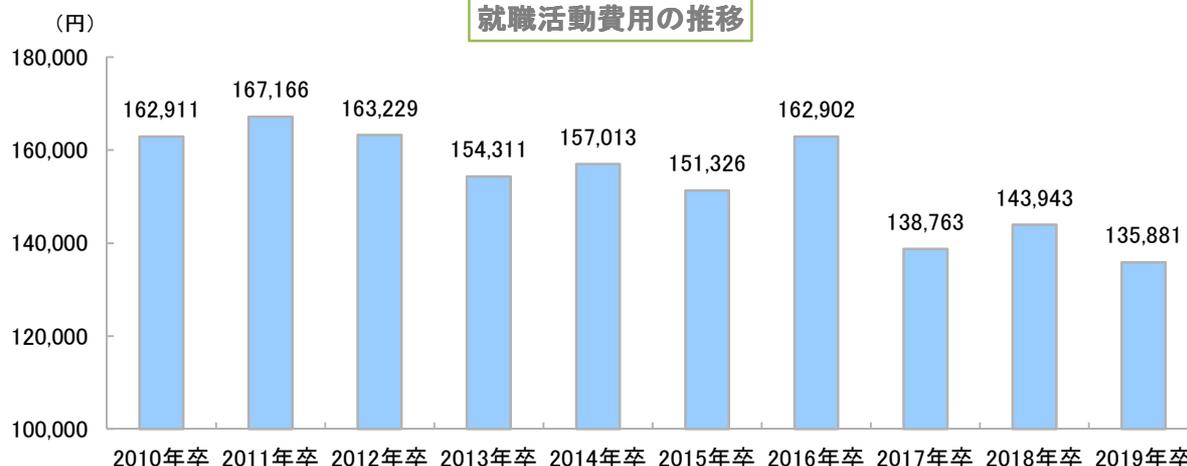
(円)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
合 計	180,223	134,467	110,424	150,661	142,355	170,167	168,416
リクルートスーツ代	36,128	25,348	38,617	41,774	36,235	32,000	34,453
交通費	88,053	74,478	41,988	70,591	67,102	96,874	89,814
宿泊費	28,936	21,196	3,037	11,780	12,404	18,230	24,698
資料費	9,532	4,250	7,552	8,259	7,127	5,753	7,178
備品代	8,496	5,761	8,988	8,099	12,720	7,230	6,267
有料講座受講費	6,277	652	8,301	7,811	3,068	6,207	4,134
その他諸経費	2,802	2,783	1,941	2,345	3,699	3,874	1,872

就職活動費用の出どころ



就職活動費用の推移



■就職活動の費用について

- 東京に4カ月ほど滞在して就職活動をしていたためこのくらいになった。 <北海道・男子/総額 290,000 円>
- 大学も地元も地方なので、交通費が随分かかってしまった。宿泊費は親戚や友人の家に泊まって抑えた。 <中四国・男子/総額 472,000 円>
- 都内在住であったが、交通費はやはりかかった。その面では、選考が進むにつれて交通費を支給してくれる企業が増えたのは助かった。 <関東・男子/総額 95,000 円>
- スーツは入学式のものに着た。関西と関東を往復していたため、交通費がかなり負担だった。就活中はアルバイトも思うようにできないので、相当親に助けてもらった。 <近畿・女子/総額 193,000 円>
- リクルートスーツをフルオーダーしたので値段がかなり張った。ただ自信に繋がるので良かったと思う。交通費は支給していただいだけ、むしろ利益があった。 <近畿・男子/総額 125,000 円>
- スーツや備品などは仕方ないが、交通費や宿泊費などは面接に来いと言っておいて自己負担はどうかと思う。面接くらい面接官が地方まで足を運んだらいいのに。 <近畿・男子/総額 132,000 円>
- 交通費を自己負担できるだけの貯金がなかったため、安く抑えられる範囲の企業のみ受けた。企業が負担するべきとは思わないが、WEB等を利用して双方の負担を減らすことができたらいいと思う。 <関東・女子/総額 50,800 円>
- 新聞を1年間購読した費用が最も高かった。 <関東・女子/総額 115,800 円>
- 就職活動中に貯金を使い果たしてしまった。 <九州・男子/総額 430,000 円>

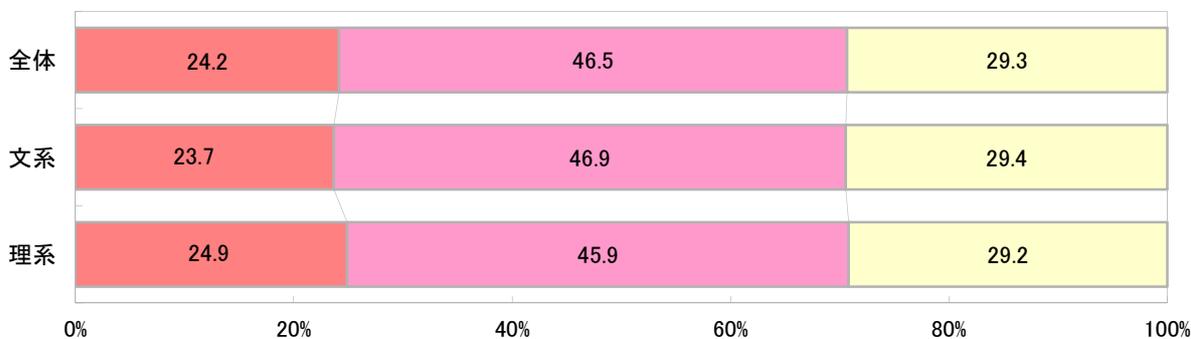
7. 就活日程ルールへの考え

就職活動の日程ルールの必要性について、今年就活を経験した立場からの考えを尋ねた。「ルールは必要だが、今の日程でなくても良い」(46.5%)と「今のルールが良い」(24.2%)をあわせると、ルールは必要と考える学生が7割を超えた。目安を必要とする学生が大半で、文理による差はほとんどない。

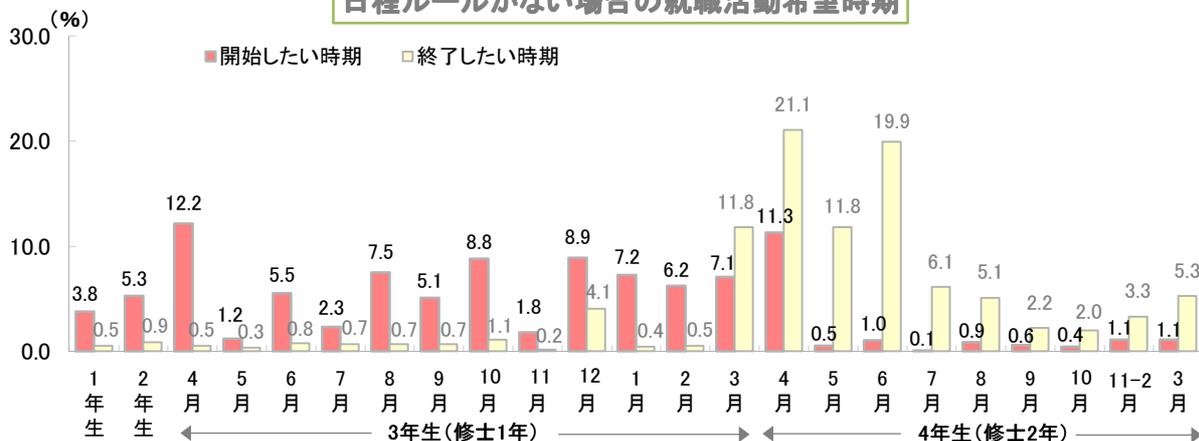
日程ルールがなかったら、いつまでに就職活動をスタートして、いつまでに終わりたいかといった就職希望時期についても尋ねてみた。開始したい時期は「3年生(修士1年生)の4月」(12.2%)、「4年生(修士2年生)の4月」(11.3%)の順に多いが、比較的分散しており、始めたいタイミングはまちまち。一方、終了したい時期は「大学4年生(修士2年生)の4月」(21.1%)と「大学4年生(修士2年生)の6月」(19.9%)に集中している。開始から終了希望までの月数を算出してみると、平均9カ月間だった。

就活日程に関するルールの必要性

■ルールは必要(今の日程ルールが良い) ■ルールは必要だが、今の日程でなくてもよい ■ルールは必要ない(廃止すべき)



日程ルールがない場合の就職活動希望時期



■日程ルールに対する意見

- 現状でも大して守られていないし不満だが、ルールがないと更にやりたい放題になる。 <文系男子>
- 現行のルールが最良かはわからないが、学業など大学生活に大きな支障をきたさないような目安はあったほうがいいのでは。 <理系女子>
- ルールを廃止して1年中ずっと活動をするような案が出されていましたが、反対です。私は短期決戦だからこそ頑張れました。集中的に就活ができたからこそ、今の内定先に巡り会えたと考えています。 <文系女子>
- 今現在ルールが守られているとは言えない状況であり、廃止されたところで特に何も変わらないと考えている。 <文系男子>
- ルールがあってもなくても、行動する人はすると思うので、なくてもいいです。 <理系男子>